

【巻頭言】 公民館からまちづくりセンターへ

浜田市公民館連絡協議会 会長 三浦 博美

社会教育を基盤に据えた協働のまちづくりに向けて、時が動き出しました。公民館からまちづくりセンターに移行する趣旨を踏まえ、浜田市公民館連絡協議会の会長としての思いを述べたいと思います。

まずは、公民館が住民の暮らしの中で、密かに成長してきた事実を振り返ります。

ある本の一行から「水を飲むときは、井戸を掘った人を忘れるな」と教わりました。それが公民館の原点です。公民館は、まちづくり・地域づくりの原点です。

公民館のはじまりを調べてみますと、それは戦後ではなく遥かその昔の明治・大正まで遡るとあります。

公民館は、戦後の焦土と化した中であって、当時の人々が必死で地域コミュニティを作り上げてきました。占領下においては、集団的な行動は強く制限されたと聞きますが、公民館活動は、諸外国にも例がないほど、優れた人々が集うシステムであったようです。公民館は、正に民主主義の道場でありました。

私たち公民館で働く者は、一生懸命、社会教育法が示すところの活動に邁進してきました。

この『我が公民館の特色ある活動・取組』は、それぞれの公民館の中で、最も特色があり、思いが込められた事業を選んで、一ページにまとめたものです。掲載できなかった数多くの活動や取組にも、特別な思いがあることと思います。

どの事業も、地域性がにじみ出た素晴らしい活動であり、確かな成果を収めた取組であります。浜田市公民館連絡協議会のテーマである『人を育て、郷を育てる公民館』が実現されたと言っても過言でないと思います。各公民館の日頃の実践に対して、心からの労い

と敬意を表します。

公民館活動の振り返りとしても一つ、特に記しておきたいことは、未来の地域づくりを担う子どもたちのことでもあります。

どの公民館も、「はまだっ子共育」や「ふるさと郷育」に力を入れてきました。これは、これからの浜田市を背負う子どもたちを、地域ぐるみで育み、子どもも大人も地域も共に高まり合おうという取組です。この『共育・郷育』は、今後の協働のまちづくりの基盤に据えるべき一番の事業であると考えます。

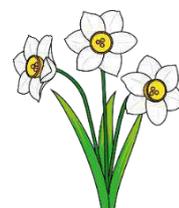
今、私達は、身震いするほど歴史の大きな変わり目にいます。

これからは、これまで蓄積してきた多くの知識、経験をベースに、まちづくり・地域づくりに向けて、更なる高みへと進むこととなります。強い責任感と使命感に臆することなく、多くの仲間と共通の目標に向かって、常に一步前に踏み出す姿勢で未来を見つめて歩み始めます。多くの市民の支えをいただきながら、私達は「まちづくりセンター」の職員として「協働のまちづくり」の理念実現のために動き出します。

我々公民館職員は、これからも社会教育の推進と地域課題の解決に向けて力を合わせて学び、行動し、その先の未来を描きます。

今こそ、これまでに培ってきた公民館精神を活かすときであり、地域づくりに対する使命感が問われるときです。どんな時代でも、どんな場面でも、時を担う人づくりが鍵を握ります。これからも、地域の皆様と共に歩み続ける所存であります。

頑張りましょう。



我が公民館の特色ある活動・取組

自治区	公民館名	タイトル	頁
浜田	浜田公民館	公民館を拠点とした若い世代の地域活動参加へ	1
	石見公民館	子どもを育む大人の学びとそれを活かした地域づくり	2
	長浜公民館	伝統文化や地域資源を活用したつながり作り	3
	周布公民館	地域で引きこもりがちな男性の活躍の場を作る！	4
	美川公民館	地域活動の活性化と協働の推進による地域づくり	5
	大麻公民館	伝統行事で地域活性化！	6
	国府公民館	『こくふ』がもっと『元気』になるように！	7
金城	雲城公民館	自然と歴史を活かした共育と地域の活性化	8
	今福公民館	広がり続ける「賑やかな過疎地」を目指して	9
	波佐公民館	～元気元気で 27年 地域と共にこれからも～	10
	小国公民館	未来へ語り繋ごう！ふるさと小国の宝	11
	久佐公民館	みんなが主役の楽しい地域づくり	12
	美又公民館	小学校・保育園もない地区の子どもたちとの交流	13
旭	今市公民館	地域活動を通じて行動する住民が変える未来	14
	木田公民館	地域の元気は「おば茶(ちゃ)ん」から	15
	和田公民館	遊休農地の利活用 ～エゴマの郷 和田をめざして～	16
	都川公民館	地区民の郷土愛を育む事物の発掘による地域の活性化	17
	市木公民館	地域資源を活用した観光・交流事業	18
弥栄	杵束公民館	地域を元気に！ ～地域の繋がりの輪を広げて、 生き生きと暮らせるまちづくり～	19
	安城公民館	めざせ！生涯現役 おでかけ会	20
三隅	三隅公民館	学びによるまちづくり事業の推進 「住民主体のまちづくり」を支える公民館	21
	三保公民館	地域の活性化による人材育成と 三保に愛着をもつ子どもたちの育成	22
	岡見公民館	岡見って イイじゃん!!	23
	井野公民館	地域住民の経験や知識、知恵を結集！ 井野の魅力を再発見！！	24
	黒沢公民館	交流人口・関係人口の拡大による地域の活性化	25
	白砂公民館	しめ縄が紡ぐ地域学校協働活動 地域異世代交流・伝承文化活動	26

公民館を拠点とした若い世代の地域活動参加へ

公民館名	浜田公民館	人口（令和2年12月）	8,625人
		世帯数（ 〃 ）	4,596戸

1 公民館で力を入れてきたこと、これからも続けたいこと

この地域の課題として、人口は多いが核家族、転勤族等も多く、なかなか若い世代の地域活動への参加が少ないことがある。地域で活躍する人々に出会い活動に参加することを通して、当事者意識をもってこれからの地域を担う人材になってほしい。その為に若い人たちに地域活動の拠点となる公民館に親しみをもってもらえるような活動をしてきたのでこれからも続けていきたい。

2 特色ある活動や行事・取組等の実践事例

◆HAMADA留学◆ ～学生たちの居場所作り～



テスト前や長期休暇中に、子どもたち(主に中学生)が勉強道具を持参し自主学習をする場として部屋を開放しています。1年目は公民館の職員が主となり中学校へ呼びかけていましたが、2年目からは県大生が運営をしてくれています。

今年で3年目！中学生の時に来ていた子が高校生になっても来てくれています。成長を見られとても嬉しいです！



分からない事があると、見守りの大学生がアドバイスをしてくれます♪

中学生だけでなく、見守る大学生にとっても良い経験になっています。

◆鬼さんばいばい◆ ～3世代でつながろう～

浜田地区社協さんと子育てママクラブ プチさんと浜田公民館の協働事業として毎年行っています。その日だけの活動ではなく、事前の打ち合わせや事後の反省会も3者でしっかり行いそれぞれが役割を持ちみんなで作り上げている事業です。

絵本の読み聞かせを聞くよ



鬼のパンツをみんなで踊るよ♪

広告で作った豆を鬼に向かって投げていると～



本物の鬼が登場～!!



季節の行事を3世代で楽しみ日本の風習を味わえる活動です。

子どもを育む大人の学びとそれを活かした地域づくり

公民館名	石見公民館	人口（令和2年12月）	12,527人
		世帯数（ 〃 ）	6,307戸

1 公民館で力を入れてきたこと、これからも続けたいこと

地域で生き生きと活動するためのヒントを見つけ、地域ボランティアとして、地域貢献に関わる前向きな気持ちになる意識の向上を目的とした地域デビュー応援講座を平成29年度より実施した。石見地区は子どもが多い。その子どもを地域ぐるみで育む活動「はまだっ子共育推進事業」に参加するシニア世代を増やすことがねらい。また、この講座で大人が楽しむ絵本を取り入れた所、人気となり平成30年度地域課題解決型公民館支援事業では、「本を読んで元気になる講座」を開催。この講座をきっかけに地域での「読み聞かせ」活動に参加する人材が増えた。現在は読み聞かせサークル「クローバーの会」として月に1度集まり、会員同士で読み聞かせを行っている。ボランティア活動として、中央図書館、長期休業中の児童クラブ、地域の高齢者サロン、ろう学校等で活躍中。今後も継続して地域ボランティア活動が取り組めるように支援する。

2 特色ある活動や行事・取組等の実践事例

『地域デビュー応援講座』平成29年度より開催。今年度の実施講座より紹介

「大人が楽しむ絵本」「環境学習」「地域の歴史」「郷土料理」「防災学習」「はまだっ子共育推進事業の取組について」「救命救急講習」「お薬手帳が役立つ」の8講座を実施した。



はまだっ子共育



防災学習

小学校の児童も学ぶ「防災」「環境」「地域の歴史」など、大人も学ぶことで生活の中に活かし、そして地域の活性化に繋げる。

子どもたちを見守る地域は、温かいお布団のように。浜田の子どもたちが、豊かな子ども時代を過ごすために、大人ができることを考える。



環境学習



地域の歴史



大人が楽しむ絵本

仲間を作り、自身の健康維持のためにも、地域貢献を続けるシニア世代を増やす。

郷土料理は、地域で広く伝承されている料理を学び、次世代に繋げる。



お薬手帳が役立つ



救命救急講習



郷土料理

伝統文化や地域資源を活用したつながり作り

公民館名	長浜公民館	人口（令和2年12月）	5,174人
		世帯数（ 〃 ）	2,546戸

1 公民館で力を入れてきたこと、これからも続けたいこと

地域に残る伝統的な祭りである、八朔花祭りにかかわることで学校・地域を巻き込んだゆるやかなつながり作りに努めてきた。

伝統工芸や伝統文化の後継者育成・地域資源の保護といった課題がある中、公民館として様々な地域学習の機会を設け、意識の向上を目指してきた。今後も若い世代の興味関心を引き出すような事業に取組、人材育成・発掘を視野に入れた活動を心掛けたい。

また、海とともに発展してきたまちとして、海洋少年団の活動を軸に海洋教育にも力を入れてきた。

2 特色ある活動や行事・取組等の実践事例



◎八朔花祭りの伝承に関わるふるさと郷育

小学校では地域講師に八朔花祭りの花の作り方を教わります。丁寧に紙を折って作る作業は手先だけでなく、根気も必要です。子ども達は、自分で作った花を家に持ち帰り、家族にも学んだことを伝えます。



◎郷土かるたの活用

地区のまちづくり推進委員会を中心に作成した郷土かるたを積極的に使い、地域の歴史や言い伝えなどの多くの事柄を、かるた大会を通して大人も子どもも自然に学んでいます。



夏の八朔花祭りでは路上でのかるた大会が恒例行事となりました。

◎伝統工芸品に親しみ、ふるさとの魅力を再発見

地域の伝統工芸品である長浜人形に関心を持つきっかけ作りを目的に、幅広い層を対象に絵付けなどの体験会を実施しています。



◎海洋少年団の活動と海洋教育

海に関する知識を身につけ、異世代での交流や、様々な体験を通して、ふるさとの海の豊かさを肌で感じ、地域に愛着を抱く人材を育てています。

地域で引きこもりがちな男性の活躍の場を作る！

公民館名	周布公民館	人口（令和2年12月）	4,996人
		世帯数（ 〃 ）	2,303戸

1 公民館で力を入れてきたこと、これからも続けたいこと

とにかく公民館に足を運んで、教室や催しに参加してもらうこと、そのために運営推進委員さんたちと一緒に知恵をしばってきた。

この姿勢を、“まちづくり”でも貫きたい。

2 特色ある活動や行事・取組等の実践事例

(1) 「周布の匠」結成～「どーんと俺たちに任せとけ」～包丁研ぎ・網戸張りで活動！

定年を迎え自宅で引きこもりがちな男性が、近所で新しいつながりや交流をひろげて「地域に貢献する意識」を高め、アクティブに活動する場を作る。

地域の男性に集まって頂き、プラットフォーム事業「男性の活躍の場」についての説明と、内容の企画発案。



講師の指導を受け、包丁研ぎの技術の習得を開始。その後、網戸張りの技術も学ぶ。



(2) 公民館の各イベントへの活動——公民館まつり（作品展など）



公民館のイベント「公民館まつり（作品展）」等で包丁研ぎを実施、月一回第一火曜日の活動を広く知って頂く。

講師を招いて、うどん作り・そば打ち体験等を、地域婦人の方にも参加手伝い頂き、「お楽しみ会」を開いて会員で話し合いもしながら「楽しく活動を継続できる工夫」もしている。



地域活動の活性化と協働の推進による地域づくり

公民館名	美川公民館	人口（令和2年12月）	1,710人
		世帯数（ 〃 ）	841戸

1 公民館で力を入れてきたこと、これからも続けたいこと

地域住民が助け合って笑顔で暮らせる安心安全な地域づくりと、美川の魅力ある景観を守り育て次世代に伝える人材の育成には、地域住民が地域の課題を共有し世代を超えた協働活動が必要不可欠である。

地域住民の絆を深め相互の活動活性化のための活動の展開方策や支援策をすることは、公民館の責務と認識し地域活動の核としてチャレンジをしてきた。

2 特色ある活動や行事・取組等の実践事例

美川再生プロジェクト

地域住民（子ども・大人）が相互扶助と地域の連携を深め美川への地域愛を育てるために、美川の宝である周布川土手の桜（昭和初期に植栽）の樹勢を回復し次世代に残すための保全活動と、ふるさとの魅力や価値に気付き理解を深め学べる場の支援として、土手の桜と春の訪れを知らせる菜の花の種を河川敷に蒔く活動の開催。

(1) 周布川土手の桜(150本)のテング巣病罹患枝の処理と寒肥の施肥事業



樹木医による
剪定指導

地域住民・青年団が剪定・施肥作業

(2) 桜と菜の花の競演事業



菜の花の種蒔に
幼少中の園児児童生徒
地域住民、160名が参加



土手に
咲き揃う
桜と菜の花

伝統行事で地域活性化！

公民館名	大麻公民館	人口（令和2年12月）	143人
		世帯数（ 〃 ）	75戸

1 公民館で力を入れてきたこと、これからも続けたいこと

地域内の少子高齢化・人口の増加は望めない状況下で、地域内での取組にも限界がある。その中で、地域外との交流・関係性の拡大による地域の活性化に重きを置き、地域外の方々にも「知って貰いたい」・「また来たい」となるようにとPR等に力を注ぎ、公民館が地域の拠点となって取り組んできた。

2 特色ある活動や行事・取組等の実践事例

五月人形展・ひな人形展・納涼の夕べ

10年以上続けている行事、最初は地域住民だけで行事を行ってきたが、口コミで、市街・県外の方々まで来て貰えるようになった。

今では、新聞・チラシ・テレビなどにも取り上げて貰う、伝統事業となった。

【五月人形展】



【ひな人形展】



今年で14回目に突入！
市内・市外・県外と多くの方々が見に来られます。
沢山の方々が寄贈してくださいました。

地域の方々の手作りです。

【納涼の夕べ】



周布小学校の放課後児童クラブの子どもたちや地域の方々がキャンドルホルダーに巻く絵を書いてくれました。



『こくふ』がもっと『元気』になるように！

公民館名	国府公民館	人口（令和2年12月）	5,691人
		世帯数（ 〃 ）	2,660戸

1 公民館で力を入れてきたこと、これからも続けたいこと

『こくふ元気プロジェクト～遊・食・美』を元に、地域住民・学校・保護者とともに様々な事業を実施してきた。事業に参加するだけではなく、企画・運営にも携わって地域を盛り上げていく人材の発掘・育成も視野に展開していきたい。

2 特色ある活動や行事・取組等の実践事例

国府地区は7つの地域に分かれる、海あり山ありの広大な地区である。それぞれに特色ある地域活動もあるが、何か1つでも7地区が関わってできることを…という思いから、「こくふ朝市」を立ち上げた。各地区から朝市に興味を持たれた方に集まってもらい、商品の売り方や会場運営など協議した。



コロナ禍で様々な行事が中止となり地域も自粛ムードの中の開催だったが、たくさんの方が来場され、久々の再会を喜ばれた。

1回目開催後に地域の方と協議をした結果、毎月1度開催することと、公民館を利用したくない色んな世代の方や電動カーを利用している方でも来やすいよう館外で開催することが決まった。今後は地域の方が主導で開催できるよう、職員は完全サポート側に回っていく。そして食品の販売に限らず演奏やダンスの発表、体験教室の場としても使用し、交流の輪を広げていくと共に、小中学校に協力を呼びかけ、部活動の発表や地域の方と一緒に朝市ボランティアスタッフとして、楽しみながら学び、そして交流を深めてもらいたい。

自然と歴史を活かした共育と地域の活性化

公民館名	雲城公民館	人口（令和2年12月）	2,366人
		世帯数（ 〃 ）	1,057戸

1 公民館で力を入れてきたこと、これからも続けたいこと

住む人が地域の自然や歴史について関心を持ち、その良さを知り、自信をもって心地よく住み続けるにはどうあるべきかを考え、まちづくり委員会や自治会、地域住民、学校などと連携協働しながら各事業を展開してきた。

このことはまちづくりセンターに移行してもまちづくりの基盤として進めたい。

2 特色ある活動や行事・取組等の実践事例

(1) ハッチョウトンボを通じた人づくり、郷づくり



小中高大の児童生徒学生が加わり地域住民と協働してハッチョウトンボ生息環境の整備をした。



(2) 岡本甚左衛門ウォーキング大会

金城中学生と地域住民が共に学ぶ場となった。

中学生と地域住民が一体となりウォーキングのガイドを務めた。

(3) 地域の象徴雲城山登山

登山者の希望により整備された3ルートからの親子登山を行った

約50人の参加者は登頂を喜び合った。



(4) ゆうあい活動

「ゆうあい」はUIターン者の互いの親交を深める活動からスタートし、友愛、YOU&Iとその意味に幅と奥行きを持たせ、まちづくりのための研修会と取組を実施した。



津和野町畑迫のまちづくり(堀庭園、旧畑迫病院の活用)の研修の様子。

乾燥野菜づくりとその活用に挑戦。



広がり続ける「賑やかな過疎地」を目指して

公民館名	今福公民館	人口（令和2年12月）	587人
		世帯数（ 〃 ）	239戸

1 公民館で力を入れてきたこと、これからも続けたいこと

夜桜茶会・幻の広浜鉄道ウォーキングなど、今福地区まちづくり推進協議会と協働で進めてきた事業が年を重ねるごとに、関係者や参加者の広がりを見せている。同時に、自治振興会・まちづくり推進協議会・高齢者クラブと連携を強めてきたので、今後はこれまで以上に地域を自分事として考える、地域の活動人口を増やし続けていきたい。

2 特色ある活動や行事・取組等の実践事例

(1) 夜桜茶会

茶楽の会、今福小学校茶道クラブ、今福地区まちづくり推進委員会、公民館が連携し、地域をあげて公民館内の多目的ホールを屋外のように仕立て、野点をする。



(2) 今福小学校支援（田植え・脱穀・稲刈り・餅つき）

毎年、全学年×今福小区の地域の方で年間を通して一緒に水稻を栽培する。卒業を祝う会と題し3月は餅つきと児童からは地域の方にありがとうの会が催される。



(3) 幻の広浜鉄道今福線ウォーキング大会

年々関係人口が広がり、関西、関東からも遺構を目指してファンが駆けつける。ロケ地にもなり、益々地元の期待値が高まり、関心を持つ住民を増やす学習会も行い、広報にも力を入れて、現地のスタッフを増やして受け入れ態勢を強化するよう努めている。



～元気元気で 27年 地域と共にこれからも～

公民館名	波佐公民館	人口（令和2年12月）	438人
		世帯数（ 〃 ）	223戸

1 公民館で力を入れてきたこと、これからも続けたいこと

約27年前少子高齢化、人口減少で地域の元気がなくなってきたと感じた当時の公民館職員が、「人が集う地域づくり」を目指し、そのきっかけとして“ひな祭り交流会”“こいのぼり掲揚”“しめ飾り作り”のイベントを企画。その思いを引き継ぎ現在に至っている。しかし、少子高齢化はさらに進み、従来の方法では継続が困難になってきたため、形を変えながら継続できる方法で取り組んできた。

2 特色ある活動や行事・取組等の実践事例

(1) 波佐保育園児と地域住民とのひな祭り交流会



保育園児の踊りや公民館教室の発表を観た後、おひな様の前で手作りのひな寿司をいただく。

(2) こいのぼり掲揚



地域から寄贈されたこいのぼりとはぎれで作ったミニこいのぼり

(3) 波佐小学校児童とのしめ飾り作り



指導者が高齢化してくるため、毎年講習会を重ね後継者の育成をしてきた。

長年地域に根付いてきたイベントを守りつつ、今までのような公民館単独事業でなく、令和3年度からのまちづくりセンター化を機に、広く自治会等とも連携し、持続可能な活動にしていきたい。

未来へ語り繋ごう！ふるさと小国の宝

公民館名	小国公民館	人口（令和2年12月）	171人
		世帯数（ 〃 ）	87戸

1 公民館で力を入れてきたこと、これからも続けたいこと

自治区内でも少子高齢化率が高く地域存続も段々と危ぶまれてきているが、地域行事を通じて住民が、企画・運営に携わる事で他地区に負けない活動が出来ていると思っ
ている。少子高齢化ではあるが、今後も交流や関係人口を増加・地域活性化のため公民館
が地域と一緒に取組みを盛り上げてきた。

2 特色ある活動や行事・取組等の実践事例

(1) 春 『小国の自然に親しむ会』



都市交流の一環で始めた事業で、地区民総出で運営の事業。
4町内で食の担当を決め、小国の春を満喫してもらっている。
特産品の販売や抽選で『小国の特産品』が当たったりと人気も
あり、年々来場者が増えている。

(2) 夏 『おぐにふるさと学校』

運営推進委員と企画・運営をしている事業。
キャンプや川の生き物観察、川遊び、魚のつか
みどり。体験学習の場で、親子世代を巻き込む
きっかけになっている。



(3) 秋 『ふれあい文化祭』



保育園の発表会と地区民の学習発表の場。
町内会や各教室で趣向を凝らした発表の場
である高齢化が今後の大きな課題でもある。

(4) 冬 『とんど焼き』

小国の伝承行事の一つで冬の風物詩である。
雪の中大変ではあるが、自治会や共催団体で運営して、一年
の無病息災を祈念している。



(5) 『ふるさと地域学習』



歴史的遺産や豊かな自然、人物などの宝を大切に思い、
残し、語り継いでいけるよう人材育成をする必要がある。
学習会を継続して行い、小国を歩いて『宝探し』をして
いきたい。

みんなが主役の楽しい地域づくり

公民館名	久佐公民館	人口（令和2年12月）	309人
		世帯数（ 〃 ）	145戸

1 公民館で力を入れてきたこと、これからも続けたいこと

少子高齢化が進む中、公民館を拠点に様々な世代の方との交流を深めながら、元気のある地域づくりを目指してきた。

これからも、人と人との関係が魅力的な地域づくりを進めていきたい。

2 特色ある活動や行事・取組等の実践事例

(1) 集うデーサロン

高齢者がひきこもりにならないように声掛けをし、交流の場として開催。認知症予防を目的に楽しく集う。



回想法



高速バス乗車体験



脳トレ

(2) ふるさと遊楽校 ～案山子作り交流会・里の川遊び～

P T Aを主体に事業を企画。若い世代のリーダー育成を目的に、子どもにふるさとの良さを伝え、地域に賑わいをもたらす。



(3) 地域の魅力再発見

地域巡りをしながら新たな魅力を発見し、地域に誇りをもつ事につなげる。



ウエスタンライディングパーク



ウィンドファーム浜田



金城民俗資料館

小学校・保育園もない地区の子どもたちとの交流

公民館名	美又公民館	人口（令和2年12月）	281人
		世帯数（　〃　）	142戸

1 公民館で力を入れてきたこと、これからも続けたいこと

小学校の廃校、保育園の廃園と地域から子どもの居場所がなくなり、それまで以上に少子高齢化の進捗が加速している。また、地域にある美又温泉も利用客が減少傾向にある。こうした状況のなか地域を守る高齢者を元気にするためには子どもや若い年代の方との交流が有効であると、公民館でも地域外を含め親子等に参加を呼び掛け異世代交流事業を行っている。

こうした交流が少しずつでも地域の応援者の増加につながり地域活性化に寄与できると活動をしている。

2 特色ある活動や行事・取組等の実践事例

子供たちとの交流

①七夕交流会 (R1. 7. 6)



地域の高齢者とつくった水鉄砲で遊ぶ

②美又温泉伝説の地ウォーキング (R1. 12. 1)



美又温泉周辺を伝説などの説明を聞きながらウォーキング 県大生も参加

②ひな祭り交流会 (R2. 2. 16)



地域の方とゲームや歌をうたい、「さくら餅」をつくる

④美又カップ伝説の干し大根づくり (R1. 12. 1)



地域の方に教えてもらい大根を抜き、干し大根をつくる 県大生も参加



地域活動を通じて行動する住民が変える未来

公民館名	今市公民館	人口（令和2年12月）	1,431人
		世帯数（ 〃 ）	679戸

1 公民館で力を入れてきたこと、これからも続けたいこと

公民館や地域を取り巻く社会状況が大きく変容する中、普遍的な一つとして【気軽に立ち寄り話のできる住民の拠り所】を目指した。その観点にたち、【今市地区まちづくり推進委員会との強固な連携を礎にした協働事業】を続けた。結果として【公民館事業とまちづくり推進委員会事業のアウトプットが多様に展開し関わる住民の応援者意識】が増えた。今後も、こうした地道な経験を積み重ね我が町へのシビックプライド醸成へと繋ぎたい。

2 特色ある活動や行事・取組等の実践事例

(1) 旭っ子フェスティバル ～いまいちハッピーハロウィン～

平成20年10月、島根あさひ社会復帰促進センター開所に伴い今市地区は人口が一挙に300人近く急増した。

新たな住民と交流できる活動が必要となり、前年度実施した旭っ子フェスティバルを、平成24年度（2012）から交流事業「いまいちハッピーハロウィン」として取り組んだ。

事業を「知ってる・好きだ」の共感が「行動する・奨める」流となり、子どもや保護者、地域の方（高齢者・中高生含む）、団体、協賛事業所など400人以上が関わる活動となった。交流事業に留まらず地域活性化事業として継続している。令和2年度旭っ子フェスティバル～いまいちハッピーハロウィン～は10回を数えた。



(2) いまいち桜プロジェクト～桜のまちづくり～



旧今市小学校校庭には、樹齢70年程の「市子桜（いちこさくら）」と愛されるソメイヨシノが立ち並ぶ。平成21年（2009）、「市子桜」の名前となった由来を調べ学習した児童らが市子桜の保護を提唱した事から、児童と共に公民館や地域が保護活動を続けてきた。その今市小学校も平成28年3月閉校となり、143年の歴史を閉じた。

閉校後、公民館がこの桜活動を事業化し今市の多くの団体の関わりで保護を継続している。平成28年の開花からは、毎年今市自治会によるライトアップも始まるなど、今市地区のまちづくり事業としても継続している。

(3) わいわい健康ウォーキング in（今市・丸原・坂本・南高台）

今市地区を形成する4自治会を毎年巡るウォーキングを開催し、令和2年度（2020）で第12回を終えた。公民館の「学び」、「つどう」機能とコーディネート力で自治会内の各種団体を「つなぎ」継続実施している。自治会と自治会を跨いだ関係人口増にも繋がり、開催地元自治会の知られざる魅力の再発見・発信にも活かされて継続している。



地域の元気は「おば^{ちゃ}茶ん」から

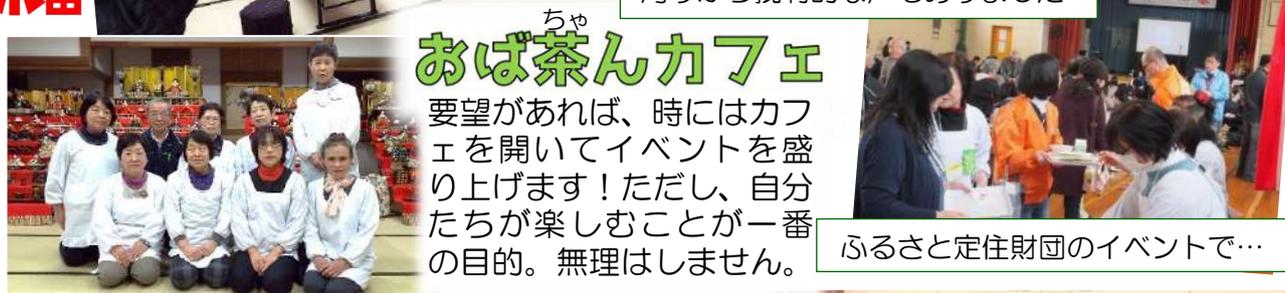
公民館名	木田公民館	人口(令和2年12月)	251人
		世帯数(〃)	123戸

1 公民館で力を入れてきたこと、これからも続けたいこと

少子化・高齢化といわれる中ですがそれは私たちの力ではどうしようもありません。「今いる人が楽しく自分を輝かせる場所があれば良い」と、木田公民館はそんな想いで活動をしています。住民が集まり、輪を作り、自分たちが楽しみながら地域を盛り上げる取組に繋がるよう応援します。地域づくりに終わりはありません。いつでも誰でもできる、継続できる活動が大切だと思っています。

2 特色ある活動や行事・取組等の実践事例

平成26年度に誰でも気軽に参加できる『お茶会』を始めました。講師を招き作法も学びましたが、本格的なお茶の作法を習得するのではなく、お茶を通して相手を想うことが大切だと学びました。



おば^{ちゃ}茶んカフェ

要望があれば、時にはカフェを開いてイベントを盛り上げます！ただし、自分たちが楽しむことが一番の目的。無理はしません。

このお茶会は今でも参加者を固定せず、興味のある方が自由に参加できるようにしています。公民館職員は活動をされる方々の声を聞きながらサポートをしています。まずはやりたい事をやってみる。それは職員も同じで、私たちがやりたい事を手伝ってもらう事もあります。その中で課題に向き合うこともあります。大きい事はできないけどこの方々の笑顔を多くの方に見てもらい、おばちゃん方のパワーを感じて木田地区がもっと元気になることを願います。



遊休農地の利活用 ～エゴマの郷 和田をめざして～

公民館名	和田公民館	人口（令和2年12月）	475人
		世帯数（ 〃 ）	238戸

1 公民館で力を入れてきたこと、これからも続けたいこと

「今、地域で気になっていること」について話し合い、最も多かったのが【環境保全】であった。地域課題として、環境保全について学習し、和田地区に適した保全方法は何があるのかを協議した。

ここ数年、和田地区ではイノシシの被害が増加傾向にあり、イノシシが嫌う「エゴマ」が適しているのではないかと考え、川本町へ視察研修等を行った。

その後、試験的にエゴマ栽培を開始。3年目になる今「エゴマ部会」が立ち上がり、面積拡大と部会員の増加を目指し、皆で意見を出し合いながら課題解決への活動を続けている。

2 特色ある活動や行事・取組等の実践事例



「川本エゴマ友の会」会長さんのお話を聞き、圃場を見学。
熟した実を手に取り感触を確認。

種まきや植え付け・収穫も共同作業で楽しく行う。



耕作放棄地防止にも一役。
収穫の喜びもひとしお！！



来年に向けて、今年度の反省と改善点を話し合う。

地区民の郷土愛を育む事物の発掘による地域の活性化

公民館名	都川公民館	人口（令和2年12月）	225人
		世帯数（ 〃 ）	124戸

1 公民館で力を入れてきたこと、これからも続けたいこと

高齢化、人口減少の中、そこに生きる地域住民の閉塞感を払拭し、一人一人の生きがいや活力を生み出すため、棚田や歴史遺構といった地域資源の発掘に取り組んできた。

さらに地域学習の中で危険箇所などの現状を認識し、防災にも役立てるよう工夫した。これらは引き続き継続して、地区民の郷土愛醸成と活力に資していきたい。

2 特色ある活動や行事・取組等の実践事例

地域の宝・歴史遺構・防災設備を巡るウォーキング

(1) 棚田トレッキング



左から「田代の棚田」「大屋形の棚田」「熊ヶ谷の棚田」

(2) 幻の戸川発電所遺構を訪ねて（未完に終わった水路跡）



(3) 城山城址探訪



(4) 地域を守る砂防堰堤（自治会長が解説）



地域資源を活用した観光・交流事業

公民館名	市木公民館	人口（令和2年12月）	239人
		世帯数（　〃　）	131戸

1 公民館で力を入れてきたこと、これからも続けたいこと

「楽しく学べる講座、教室」を念頭に、参加者が興味のある事業を中心に推進してきたが、地域にとっての社会教育の一翼を担ってきたものか疑問である。特産品、観光地もなく、極度に進む高齢化と世帯減少の中において、まちづくり推進委員会と協働で開催しているほたる祭りの「ほたる」を地域資源として捉え、観光交流の拡大を目指している。

2 特色ある活動や行事・取組等の実践事例

～ほたる増殖研究会の立ち上げ～

平成8年から地区有志によりほたる増殖が行われていたが、高齢化により1人となった。これを継承すべく平成30年から14名が参加し、「ほたる増殖研究会」を立ち上げ、ほたる採取、孵化、放流を行っている。

また、本年のまちづくり交付金を活用し、「ほたるの郷」看板を設置した。



初めての研修会では、ほたるの生態や採取方法等について学び、採取を行なった。



邑南町立市木小学校34年生が総合的な学習（ふるさと学習）で、ほたるの養殖に取り組みました。



今年度は、合わせて120尾のほたるを採取し、そのうちの7割が孵化に成功し、約3万尾の幼虫を市木川・来尾川に放流した。



初年度に比べ、孵化成功率も年々上がってきている。

今後も情報発信の方法を探りながら、観光交流の拡大に努めていきたい。

地域を元気に！～地域の繋がりの輪を広げて、生き生きと暮らせるまちづくり～

公民館名	杵束公民館	人口（令和2年12月）	525人
		世帯数（ 〃 ）	291戸

1 公民館で力を入れてきたこと、これからも続けたいこと

杵束地区は高齢化と人口減少が進んでいる。高齢になっても住み慣れた地域で安心して楽しく生活を送れるために、公民館が潤滑油のような役割となるように力を入れてきた。今後も、地域住民の楽しみのひとつの行事、繋がりが持てるような行事、伝統行事の継承を視野に入れながら、地域の拠点として地域活性化への仕掛けづくり、リーダーシップの育成に取り組んでいく。

2 特色ある活動や行事・取組等の実践事例

・『泥おとしまつり』

田植えが終わり農繁期の疲れを癒すための骨休め的な行事
交流をとおして地域の活性化を図ることを目的に開催

ハウノキの葉で包んだ豆むすび
(この時期ならではのもの)



地元杵束田ばやし保存会による「田植えばやし」、公民館サークルの発表の場。
野菜や手作り加工品販売。「泥おとしまつり」は住民の生きがいや楽しみになっている。



・『通学合宿』 感謝・責任・協力・忍耐 ・我慢・工夫・整頓

自立性、協調性を高める
家庭の大切さや親のありがたさを改めて知る
関わりを持ちながら地域内外の方々との繋がりを深める



女性の会による食事作り指導、県大生には学習指導、もらい湯など、地元をはじめ多くの方々にお世話になる。

・『地域の歴史を知る健康ウォーク』

健康ウォーキング → 集落への刺激 → 大人同士の語り合い →
→ 地域の繋がり → 地域の大人から子どもへの伝承 → 地域を守る



集落巡りをするすることで、新たな発見、出会い、そしてさまざまな場面からうまれる輪→集落の繋がりへ。



集落の「ごちそう」でおもてなし



運営委員さんによる
現地確認など事前の準備



めざせ！生涯現役 おでかけ会

公民館名	安城公民館	人口（令和2年12月）	689人
		世帯数（ 〃 ）	376戸

1 公民館で力を入れてきたこと、これからも続けたいこと

高齢化率 50%の弥栄町。地域の高齢者が元気に歳を重ね、健康寿命を延ばすために、家に閉じこもらず公民館へ出かけて来てもらう事を目的に、様々な講座を企画し、実施してきた。

徐々に参加人数も増え、参加者が各集落のサロン等で活動をする際のヒントを持ち帰る会にもなっている。

2 特色ある活動や行事・取組等の実践事例

おでかけ会の様子を一部紹介します！



《音楽療法・脳トレ・体操》

身体の様々な部分を使って、いつまでも若々しく！

《避難所運営 HUG ゲーム体験》

実践する機会がないに越したことはありませんが、万が一を想定して話し合っておくことも大切です。

《フラワーアレンジメント》

習ったことを活かし、その年の敬老会のテーブルを飾りました。



《遠足》にも行きます🚌



学びによるまちづくり事業の推進 「住民主体のまちづくり」を支える公民館

公民館名	三隅公民館	人口（令和2年12月）	1,797人
		世帯数（ 〃 ）	859戸

1 公民館で力を入れてきたこと、これからも続けたいこと

平成21年度より三隅地区まちづくり推進協議会の事務局としてまちづくりとともに事業を開催している。それ以前の平成13年度より三隅地区生涯学習推進委員会（公民館運営委員会）と地域課題解決を目指して、年に数回の生涯学習推進セミナーを行っている。今後も学びによるまちづくり事業を推進し「住民主体のまちづくり」を支える公民館（センター）として活動を続けていきたい。

2 特色ある活動や行事・取組等の実践事例



(1) 平成29年度生涯学習セミナー「三隅川の脅威と恵みを学ぶ」

29年7月県西部に大雨特別警報が発令され、町内各所で避難所が開設された。

三隅川の増水による恐怖が昭和58災害を思い起こした。私たちは三隅川から幾度もの脅威に脅かされたが、その半面恩恵もたくさん受けてきた。三隅川について知ることを目的に開催。



放水路出口



御部ダム

(2) 平成30年度生涯学習セミナー

「平時は貯水しないダムを学ぶ～」矢原川ダム建設予定地&益田川ダムを巡る旅～

これから建設が始まる矢原川ダムについて学ぶことを目的に開催。矢原川ダムは御部ダムとともに洪水調節を行う上流ダム群のひとつ。平時は貯水せず、洪水時に流量を調節し三隅川流域の人命と資源を守るためのダム。（益田川ダムと同じ構造）



事前学習



矢原川ダム予定地



益田川ダム

(3) 令和元年度生涯学習セミナー「紅葉と味覚ウォーク御部ダム～道猿坊公園～

三隅川シリーズ最終セミナー。御部ダム湖周辺をウォークし、道猿坊公園にて防災用大鍋で豚汁の炊き出しを行い、昼食をとる。防災グッズを定期的を使用することでいざという時もスムーズに使用できることを目的に開催。



周辺ウォーク



炊出し

学びによるまちづくり事業の推進

住民主体のまちづくりを支える公民館

地域の活性化による人材育成と三保に愛着をもつ子どもたちの育成

公民館名	三保公民館	人口（令和2年12月）	1,643人
		世帯数（ 〃 ）	798戸

1 公民館で力を入れてきたこと、これからも続けたいこと

平成11年新築開館から地域住民に愛される魅力ある公民館を目指し、サークル活動の立ち上げと地域の特色・人材を活かした事業や子ども支援事業「きらめき！子ども体験教室」を中心に、各種団体と連携しながら地域間の交流を深めてきた。

少子高齢化が進む中、事業を継続してきたが、今後はさらに若者や子どもたちを巻き込みながら、愛着が持てる地域づくり、拠点づくりに取組たい。

2 特色ある活動や行事・取組等の実践事例

(1) 暮らしに活かそう石州和紙 ➡ 石州和紙灯ろうまつり

地元特産である石州和紙の良さを知り関心を深めるため、平成15年から紙漉き体験や障子はり・大おろち・ランチョンマット・絵手紙・灯り作り、さらに石州和紙をニカワや草木染め染料で加工した作品作りなどへと体験の場を広げ、やがて灯ろう制作活動、「石州和紙灯ろうまつり」事業へとつながり多くの方々を巻き込み8年目を迎えました。



「紙漉き体験」



「かざらと和紙の灯り作り」



「灯ろう作りと精霊流し」



事業の度に「楽しかった」「友だちと仲良くやれました」「地域の方がやさしかった」「またやりたい」など、子どもたちが感想を書いてくれました。

小学校や公民館・三隅川河口会場を中心に、子どもたちや地域住民を対象に灯ろう作り。「石州和紙灯ろう作り」は58年や過去の災害を教訓に、大災害が二度と起こらないことを願い、後世に伝えること、自主防災組織の確立、地域が安心して暮らせる機会を作ることを目的に開催を始めました。

(2) 子ども支援事業

「きらめき！子ども体験教室」…特徴は活動の中に必ず人権アニメ視聴を組み込むことです

この教室は平成13年に「子どもの活動の場を作ろう」「地域で子どもたちを育てよう」という2本柱で発足し現在に至っています。継続は力なり…地域の方をはじめ、国際交流員や民生児童委員さんともつながり、三隅小児童クラブ、乳幼児親子から保育園児という幅広い世代を対象に交流事業を行ってきました。今後は、さらに「はまだっ子共育推進事業」へと継承し地域の活性化につなげていきます。



「餅つき交流会」



「ニュースポーツ体験」



「なかよしクッキング」



「海辺であそぼう」

岡見って イイじゃん!!

公民館名	岡見公民館	人口（令和2年12月）	1,175人
		世帯数（ 〃 ）	595戸

1 公民館で力を入れてきたこと、これからも続けたいこと

様々な公民館事業を通じ、地域住民に楽しみや生きがいを見つけてもらうと共に、人と人とのつながりを強め、住みやすい地域にすることを目標にしてきた。今後もそのような取組を続けたい。

2 特色ある活動や行事・取組等の実践事例

「おかみかるた」の制作

平成28年度より、生涯学習セミナーとして、「おかみかるた」制作を計画する。

岡見の風景、人情、伝統、歴史、言い伝え、地名などあらゆることを題材とする。



完成した「かるた」

(1) 完成までの流れ

- ・公民館だより等で読み札文を募集する。
- ・「岡見ウォーク」で地域内を歩き、題材を探して読み札文を考える。
- ・集まった文案の中から、生涯学習地域推進委員会で読み札を決定する。
- ・取り札は、これまでの公民館活動からの写真や推進委員が手分けをして撮影した写真などを使用する。
- ・シールに印刷したものを推進委員が手作業で台紙に張って仕上げる。



岡見ウォークの様子



仕上げの様子

- ・以上のような作業を経て、平成3年2月に完成する。
- ・各自治会、小学校、保育園等に配布、かるた会などで使用してもらう。

(2) 「おかみかるた」を制作して

- ・岡見地域の「人、物、事」の素晴らしさを改めて確認できた。
- ・かるたを制作するにあたって、様々な公民館事業につなげることができた。
- ・学校、自治会等でかるた会などを行うことによって、ふるさと郷育や地域活性化につながることを期待する。

地域住民の経験や知識、知恵を結集！井野の魅力を再発見！！

公民館名	井野公民館	人口（令和2年12月）	644人
		世帯数（　　〃　　）	335戸

1 公民館で力を入れてきたこと、これからも続けたいこと

井野の自然環境、伝統文化等、郷土の良さを再発見し、一方地域の抱える課題解決に向けた活動を、コミュニティづくりとともに進めた。地域住民らの培われた知識や経験、知恵を存分に活かした活動をと考え、支援し実践してきた。

少子高齢化、人口減少に歯止めがかからない状況ではあるが、新たな事業を立てるのではなく、現状の事業の見直し等を丁寧に行い、公民館が拠点となり地域づくり、まちづくりを実践していきたい。

2 特色ある活動や行事・取組等の実践事例

「ひと・もの・こと」を最大限に活かしたふるさと郷育
～春の山菜セミナー・歴史探訪・井野の夏まつり・竹水鉄砲づくり～



春の山菜セミナー



歴史探訪セミナー



井野の夏まつり

大入学と題して毎回テーマを設け、井野とかかわりのある人物、土地へ出かけ学び直しを行った。

井野在住20代～60代の若手が企画した井野の夏まつり。世代を超えた大同窓会をイメージし、在住者と出身者とその家族がつながるきっかけとなった。いずれは定住につながることを期待している。公民館は、会場提供、文書発送などの事務的支援をおこなった。



大人も子どもも一緒に遊ぼうぜ！

竹細工を得意とする高齢者を講師に迎え、昔ながらの竹水鉄砲をつくり、大人も子どもも一緒になって遊んだ。

高齢者とかかわることで顔見知りとなり、地域の一員だとの認識が生まれ、また地域の方々に見守られているという安心感がうまれたようだ。

交流人口・関係人口の拡大による地域の活性化

公民館名	黒沢公民館	人口（令和2年12月）	243人
		世帯数（ 〃 ）	120戸

1 公民館で力を入れてきたこと、これからも続けたいこと

少子高齢化、人口減少社会の真っ只中であって、正に一人暮らしの高齢者社会という地域的課題に直面している。このままでは地域が消える。この危機感を共有し、地域住民が一致団結し、地域課題の解決について、共通の目標をもって当事者意識を高めることとした。

人口の増が望めない状況下では、ふる里というキーワードで、交流人口、そして地域の特徴をキーワードに関係人口の拡大を図り、地域の活性化に舵を切ることとした。これまでは公民館が地域の拠点となって事業を主体的に取り組んできた。これからは、より高みへと公民館を基地にさらに活動を展開していきたい。

2 特色ある活動や行事・取組等の実践事例

ふる里サポーター制度の確立と交流人口の拡大 “拡大同窓会・かっぱランド夏まつりを通して”

(1) 旧黒沢中学校・旧三隅南小学校拡大（開校から閉校までの全卒業生）同窓会の開催



ふる里の応援団（ふるさとサポーター）になってもらうための呼びかけを行った。



(2) 同窓生を巻き込んだ「かっぱランド夏まつり」の開催



ふる里が頑張っている姿を見てもらい、ふる里の良さを同窓生にも味わってもらうことによって、交流人口の拡大を目指した。

◆自然に触れ、はしゃぐ我が子の姿に感動と涙そしてふる里への想いが・・・



(3) ふる里の真心を宅配便で 【ふる里のブランド米】 “いいね、黒沢”を出荷。



ふる里米「いいね、黒沢。」の申し込みがあった黒沢出身者には、送るだけではなく、ホームページを閲覧してもらうことや、機関紙「いいね、黒沢。」を届け、ふる里の情報を事細かにお知らせするなど、交流人口の拡大に努めている。



黒沢郵便局の窓口での様子

しめ縄が紡ぐ地域学校協働活動・地域異世代交流・伝承文化活動

公民館名	白砂公民館	人口（令和2年12月）	266人
		世帯数（　〃　）	118戸

1 公民館で力を入れてきたこと、これからも続けたいこと

地域学校協働活動の中で最も大変なしめ縄づくり。大切な日本文化ゆえに、年末にもなると各地域でも異世代交流として行われますが、人材不足と材料準備に時間がかかり、少しずつ姿を消しているのが現状でしめ縄づくりそのものが地域課題の一つです。ましてや、学校との活動になれば、対学校、対ボランティアと細やかな連絡調整が必要なうえ、材料準備も相当時間がかかることから、令和2年度は、一時的に集まるより準備を兼ねて手習いし、ボランティア自身が地元で活用する準備を併せて行う手法を取り入れてみました。

今後も可能な限り、情報共有しながら楽しんでもらえる後継者育成を続けていきたいと思えます。

2 特色ある活動や行事・取組等の実践事例



6月～11月の半年間、毎月1回集まり順序だてた反復練習と準備を行いました。

派手さがなく、シンプルなしめ縄なので丁寧な編み方・工夫点を講師から伝授。



三隅小での活動。「子供達に楽しんでもらいたい。」との思いで支援に入られました。



伝統のしめ縄作りには、地域住民の学びと活動の好循環が見られ、地域異世代交流・伝承文化活動といった地域活動が三隅小学校との地域学校協働活動へと発展しています。